

施策評価シート(令和2年度実績評価)

施策の基本情報

政策No	0101	政策名	農林業の振興	施策主管課	農村林務課	課長名	菊池 正彦			
政策の目指す姿	農林業者が安定した所得を確保しています									
施策No	05	施策名	森林の保全	関係課名						
施策の目指す姿	森林が健全に育っています									
現状と課題										
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当市の松くい虫による被害については、一部の地域を除き蔓延化し、高被害地域に位置付けられたことにより、駆除に係る国からの支援が少なくなっています。 ・林業への関心低下、地域の過疎化、高齢化により里山環境の管理を行う地域住民が減少し、適切な管理が行われていない森林が増加しています。 ・ナラ枯れ被害が県内で拡大しており、当市の周辺で被害が確認されています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松くい虫による被害については、観光地等の周辺や特用林産物の生産地である森林の保護のため官民一体となった計画的な駆除と防除の対策を講じる必要があります。 ・適切な里山環境を維持するため、里山整備を進める必要があります。 ・ナラ枯れ被害状況を確認し、ナラ枯れに強い森づくりを推進する必要があります。市内で被害が発生した場合は早急に駆除する必要があります。 										
前年度の評価の振り返り										
前年度評価時の今後の方向性										
<ul style="list-style-type: none"> ・水源地視察や木工体験教室、市民が自ら取り組む森林体験事業やシンポジウム、市有林を活用した植樹体験などを内容の拡充を図りながら継続して実施するとともに、里山整備を促進するため国の事業活用のほか市独自の支援を行い、森林に対する意識啓発を図っていく。 ・市内の松くい虫被害の先端地域である大迫地区を中心に集中的に被害拡大防止を図るとともに、ライフライン(道路・電線)の確保と景観保全を目的とした被害木の処理を計画的に進める。また、被害木のバイオマス燃料への活用を進めるため、樹種転換事業や森林整備事業を組み合わせ、民有林の松くい虫対策が進むよう関係機関と連携を図りながら森林保全を進める。 										
反映状況										
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止あるいは規模縮小したイベントも一部あったが、市有林を活用した植樹体験を開催するとともに、里山の自伐整備を行うための知識や技術の習得講座、安全講習の開催等に係る支援を行い森林に対する意識啓発を図った。 ・大迫地区を中心に松くい虫被害拡大防止対策を進めるとともに市有林において樹種転換事業を実施した。また、ライフライン(道路・電線)の確保と景観保全のため被害木処理を行うとともに被害木の有効活用策としてバイオマス燃料としての活用を促進するため支援を行った。 										
1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組										
<p>(1) 森林保全の推進</p> <p>観光地等の周辺や特用林産物の生産地である森林の保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胡四王山周辺や大迫地域を重点的に被害拡大防止対策を実施した。 <p>松くい虫被害木のバイオマス燃料としての活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人が持ち込み可能な小口買い取り制度を支援し松くい虫被害木のバイオマス燃料としての活用を進めた。 <p>隣接自治体との連携による保全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠野市と連携し観光ルートの枯損木除去を行い景観保全を図った。 <p>樹種転換の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松くい虫被害が蔓延している赤松林について他の樹種への変換を図った。 <p>(2) 森林の持つ多面的機能への意識啓発</p> <p>自伐型林業の推進と担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スモールフォレストカレッジ(講座)や安全講習を開催し林業担い手の育成に努めた。 <p>地域住民による里山保全活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が自主的に行う里山整備に対し支援した。 <p>植樹、水源地視察など森林に親しむイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会や小学生による植樹体験を開催した。 										
2 成果指標										
成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	区分	H29	H30	H31	R02	R03	R04
植樹、森林作業の講座等の総参加人数	里山保全活動の担い手育成や森林への関心を深める活動を進めるため。	出典：農村林務課集計 各種イベントの参加人数	人	目標値				310.00	310.00	310.00
				実績値				293.00		
里山保全活動が行われた面積	市民自らが里山保全に対する関心が高まってきていることと、今後も里山再生を推進し、適正な森林の機能維持を図るため	出典：岩手県 県全体のサポートを「いわて里山再生協地域議会」が行っており、活動団体、活動対象地区、活動面積を把握することが可能である。	ha	目標値				64.80	66.70	68.70
				実績値				117.30		
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<p>成果指標「植樹・森林作業の講座等の総参加人数」・・・【達成度b】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一部イベントの中止あるいは規模縮小を行ったため目標には達しなかったが、市民の意識啓発のため内容の充実を図りながら今後も継続して実施する必要がある。</p> <p>成果指標「里山保全活動が行われた面積」・・・【達成度a】 市民自らが積極的に国の事業を活用して里山の保全を進めている。市においては制度紹介や活用の呼びかけなどを積極的に行っており、また、経費の応分負担（国3/4、県・市1/8）をするなど活動に対し支援している。</p>

4 施策を構成する事務事業の検証

市民のニーズや市の関与の必要性が低下した事業、 投入コストの割に成果が低い事業、 施策への貢献度の低い事業はないか
なし
施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか
<ul style="list-style-type: none"> ・（森林保全啓発事業）森林保全への関心を高めるため、イベントの内容を充実させながら、子供たちをはじめ市民に様々な体験等の機会を継続して提供していく必要がある。 ・（森林環境保全事業）松くい虫対策については、国予算が減少する中、市内の先端地域である大迫地域において重点的に被害拡大防止対策を行うとともに、近隣市町と連携した対策を継続して行う必要がある。また、バイオマス燃料としての被害木の活用を一層推進する必要がある。
新たに取り組むべき事業はないか
なし

5 施策の総合的な評価

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・市民自らが山や木に親しみ森林の持つ多様性に関心を高めるイベント等の企画や森づくりに関する情報があまり多くないこともあり、市民全体の割合から見れば市内イベントへの参加者が少ない状況となっていることから、市民が関わる機会の確保が必要となっている。 ・松くい虫被害の先端地域が北上し被害対策に係る国予算が減少していることから、選択と集中による被害拡大防止と樹種転換の促進や森林所有者等の自発的な防除活動など近隣市町や森林管理署、関係者と連携した取り組みが必要となっている。
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・水源地視察、木工体験教室、植樹などの森林体験事業やシンポジウムなど各種事業内容の拡充を図りつつ、社会状況に対応した方法（場所、規模等）により継続して実施するとともに、里山整備を促進するため国の事業活用促進や市独自の支援を行い、森林保全に対する意識啓発を図っていく。 ・市内松くい虫被害の先端地域である大迫地域を中心に集中的に被害拡大防止を図るとともに、被害木倒伏によるライフライン（道路・電線）への被害防止と景観保全のため被害木の処理を進める。また、被害木のバイオマス燃料への活用、樹種転換事業や森林整備事業を組み合わせ関係機関と連携を図りながら森林保全を進める。

施策を構成する事務事業一覧

No	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		
			対象	意図	成果
010	森林保全啓発事業費 森林保全への理解を高めるためのイベントの開催 開催4回 総参加人数293人 (自然観察会、植樹体験、スモールフォレストカレッジ、安全講習)	農村林務	一致	直結	B
			直結度 A		
020	森林環境保全事業費 松くい虫被害拡大防止と森林資源の適正な維持管理 (駆除材積 911m3、私有林巡回回数 168回)	農村林務	一致	直結	A
			直結度 A		